

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 神楽の里
日付	平成17年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	看護、訪問看護経験4年、福祉系短期大学 教職員経験7年
評価調査員	老人保健施設介護実務及び介護支援専門 員経験8年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 津山市の北部「神楽尾公園」のある小高い丘に建ち、近所は畑作農家で、公園までの畑道が利用者の散歩コースである。今朝も元気な女性同志散歩に出掛けて行った。 「お邪魔します、今日は1日遊ばせて下さい。よろしくお願いします」と挨拶すると「どうぞ、どうぞ」「こちらにお座り下さい」と心良く迎えてくれた。「嫁が、ここに連れてきてくれたんです。来てみて本当に良かったです」「ととても皆さん元気が良いんですよ、そしてそれぞれが「若い時のこと」「元気があった頃の仕事」等を懐かしそうに又自分が一生懸命家族を支えて来た事を誇らしげに語る姿は、生き生きとしていた。 キッチンでは「チクワを刻む」「卵の錦糸づくり」「菜の花を切る」等、利用者が小気味よい包丁さばきをしている。「この方は、いつも調理の下拵えをして下さいます」「あの方は食器洗いやお盆の片付けをしてくれるんですよ」「向うの方はテーブルやカウンターを拭いて下さいます」と職員の説明通り、その時にはしっかりと仕事を担当していた。 散歩から帰った人が、おみやげに椿の花を持って帰ってくれ、食卓に飾ってくれる。みんながテーブルに着き、お昼のちらし寿司のメニューが揃っていく。一人の男性利用者(ご主人?)が「それでは頂きましよう」の挨拶で「いただきます」と食事が始まった。利用者の表情も穏やかで、ゆっくりと一日の生活が流れている感じである。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした ケアプランをもう少し具体的にし、職員全員で共有できるようになると良い。入居前の情報収集からアセスメントが十分出来るよう工夫して貰いたい。 利用者の隠れた能力を見つけるために、そろそろ積極的な取り組みを始めて見たら如何でしょうか。 次の点の改善を検討して貰いたい。 ・トイレの扉が折り戸になっている。突然中から開くと入口近くにいる人に当たり転倒する恐れがある。 ・居室の扉が大きく開くので、手摺等がないとバランスを崩す危険性があり、何か安全対策が必要ではないでしょうか。 ・トイレの便座がやや高いと感じた。トイレ内でオムツ交換時用の手摺が欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 豊かな自然の中で、自分の役割を持ち、利用者間がいい関係を保ちながら自立した生活をして頂く。この理念の通り、利用者一人ひとり何が出来るか、無表情の方には、何がそささせているのか、どう対応すればその人らしい生活が送れるかを考えて、かかりつけ医等と連携を密にしなが生活している。ホームに来てから、向精神薬を切り、生き生きとした生活を取り戻した人があり、利用者の代弁者として家族と関わってきた様子を聞き、理念の具現化に向けて努力している様子を感じることができた。また、利用者の方々の「うれしい一言」「笑顔」が職員を元気づけ、共により良い生活を目指している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か リビングはゆったりとして、明るい。南～東に広くガラス窓があり、利用者が「自分の故郷が見える」と言って外の風景を眺めている。木と白壁で天井が高く太い梁があり、開放感と落ち着きがある。フロアから一段上がると、畳敷きの空間があり、ちょっと腰掛けられ、コタツが置いてある。風呂上りにコタツに入る人もいとのこと。思い思いに過しても十分なパーソナルスペースが確保でき、非常に穏やかな雰囲気の流れている。 一步玄関を外に出ると、グループホームの敷地には野菜や花畑があり、裏には傾斜面を利用して菊やイチジクの木が植えられている。春から秋にかけては見がいもあるだろう。外は東～南面が借景で目を楽しませてくれる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 昼食が済むと、自分のお膳はキッチンまで持って行く。これから「お皿を洗う人」「お盆を乾拭きして収納へ入れる」「キッチンカウンターやテーブルを拭く人」等食後の片付けに沢山の利用者が参加する。 最年長96歳の女性利用者はテーブル上に敷いたビニールクロスを布巾で拭きながら、職員や元気な利用者「そこ巻いて!!いや、違う、そこやそこや」と指図している。もう済んだかと思うと、又元に戻りやり直し。「そこから折って!!」と指図が続く。何回も何回も繰り返す。大変な付き合いたけれど、職員は辛抱強く「ここでいいですか」「折りますよ、どうですか」と続けている。一人ひとりの力を家事に発揮して貰っている反面、認知症の人の繰り返し繰り返しに対応している認知症ケアの実際を見せて貰った。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 管理者と職員間で、毎月1回全員が参加して定例会議を開催しており、利用者一人ひとりの情報を共有化して、グループホームの質の向上に努力している。又、職員間で何事も言い合える関係を大切にしている。現在は職員の意識付け(記録や問題解決に向けての前向きな責任感等)の向上に取り組んでいる。 これからは最寄の2つのグループホームがより連帯感を強めて、お互いに協力し合いながら、利用者や家族へのサービスの質向上に努めて頂きたいと思う。 母体が保育園を営む福祉法人であるが、子供と高齢者の組み合わせは別の利点があり、社会を巻き込んだ活動を期待する。		